

科目名 (英)	解剖生理学 Anatomicalphysiology	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 土曜日 2時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 病院、医療センターにおいて臨床兼エア技師、細胞検査士、国際細胞検査士として臨床(病理検査、細胞診)業務に携わり、また臨床検査技師学校および看護学校での教育経験を有する教員が本講義を担当します。言語聴覚士として必要な人体の構造と機能について十分な知識が身につくように、わかりやすく講義していきます。							
【到達目標】 言語聴覚障害に関わる疾患や障害を理解するのに必要な人体の解剖学および生理学の知識について学びます。							
【使用教科書・教材・参考書】 人体の構造と機能(医歯薬出版)				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 血液・凝固系 【授業形態】 講義 【到達目標】 血液の組成やその働きについて説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 血液・凝固系2 【授業形態】 講義 【到達目標】 血液の組成やその働きについて説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 血液・凝固系3 【授業形態】 講義 【到達目標】 血液の組成やその働きについて説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 中間試験・解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 生体防御機構1 【授業形態】 講義 【到達目標】 免疫の仕組みについて学び理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 生体防御機構2 【授業形態】 講義 【到達目標】 免疫の仕組みについて学び理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 生体防御機構3 【授業形態】 講義 【到達目標】 免疫の仕組みについて学び理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験・解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】			【評価方法について】 中間試験40点、定期試験60点により評価する。			
【特記事項】 中間試験、定期試験実施後はまとめ等の講義を行います。							

科目名 (英)	精神医学Ⅱ (Psychiatry)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 月曜日 3時限
看護師の資格を有し、大学院で心理学、脳科学 神経の研究をしていた講師が精神疾患について講義する。臨床体験と関連付けながら、講義を行う。							
【到達目標】 言語聴覚士として必要な精神医学の知識を理解し、習得する。							
【使用教科書・教材・参考書】 配布資料				【授業外における学習】 1年時の復習 専門用語の理解			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】器質性精神障害 【授業形態】講義 【到達目標】 器質的疾患と精神障害との関連を理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】統合失調症 【授業形態】講義 【到達目標】 統合失調症の主な症状、検査、診断、治療方法について理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】認知症 【授業形態】講義 【到達目標】 認知症の主な症状、検査、診断、治療方法について理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】中間試験、解答解説 【授業形態】講義 【到達目標】 1回から3回のまとめ 試験後、内容を確認する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】気分障害 【授業形態】講義 【到達目標】 気分障害の主な症状、検査、診断、治療方法について理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】神経症 心身症 【授業形態】講義 【到達目標】 神経症と心身症の違い、主な症状、検査、診断、治療方法について理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】睡眠障害 【授業形態】講義 【到達目標】 睡眠障害の主な症状、検査、診断、治療方法について理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】定期試験、解答解説 【授業形態】講義 【到達目標】 5回から7回までのまとめ 内容を理解する。			【評価方法について】 中間試験40点と定期試験60点で評価する。			
【特記事項】 心理学の知識も必要です。							

科目名 (英)	形成外科学 (Plastic Surgery)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 月曜日 4限目
【授業の学習内容と心構え】 看護師の資格を有しており、美容皮膚科、美容形成外科での勤務経験を持ち、医療系大学の授業経験を持つ教員が授業を行う。言語聴覚士の職務に必要な形成外科学の分野を、症例写真を用いながら講義を行う。							
【到達目標】 言語聴覚士として必要な形成外科学の基礎知識を理解して修得する。							
【使用教科書・教材・参考書】 標準形成外科学 言語聴覚士テキスト 配布資料				【授業外における学習】 専門用語の理解			
回				回	授 業 概 要		
1	【授業単元】皮膚の構造と機能 【授業形態】講義 【到達目標】皮膚の構造と機能について理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】熱傷 皮膚移植 【授業形態】講義 【到達目標】熱傷の診断、治療を理解する。 植皮 皮弁 Z形成術について理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】顔面神経麻痺 【授業形態】講義 【到達目標】顔面神経麻痺の診断、治療を理解する。顔面神経と三叉神経の支配領域の違いを理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】中間試験、解説 【授業形態】GW＋講義 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】口唇裂・口蓋裂 【授業形態】講義 【到達目標】口唇裂・口蓋裂の診断、治療を理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】顔面先天異常 【授業形態】講義 【到達目標】顔面先天異常の発症機序、病態を理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】難治性潰瘍、眼瞼下垂 【授業形態】講義 【到達目標】難治性潰瘍、眼瞼下垂の病態、治療を理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】定期試験、解説 【授業形態】講義 【到達目標】			【評価について】 中間試験の40点と定期試験の60点で評価する。学則の評価基準に準ずる			
【特記事項】なるべくイラスト中心に資料作成していますが、疾患の状況理解するために写真も多いので、苦手な方にはその都度お伝えしながら進行していきます。自分でも検索して知識と結びつける復習をしてください。							

科目名 (英)	臨床歯科医学・口腔外科学Ⅰ	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
	(Clinical Dentistry and Dental Surgery Ⅰ)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 日曜日 1時限
学科・コース	言語聴覚士科2年制						
【授業の学習内容と心構え】 歯科医師として臨床歯科・口腔外科経験のある教員が、言語聴覚士として必要な臨床歯科医学、歯科口腔外科領域の知識について学び、理解するための講義を行う。							
【到達目標】 言語聴覚士として必要な臨床歯科医学、歯科口腔外科領域の知識を学び、理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学 -器質性構音障害- 第2版 道 健一、他(編集) (医歯薬出版)				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 歯・口腔・顎・顔面の形態と構造について。 【授業形態】 講義 【到達目標】 口腔・顎・顔面 歯・歯周組織・唾液腺・顎関節について説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 歯・口腔・顎・顔面の発生・発育について。言語機能、咀嚼機能について。 【授業形態】 講義 【到達目標】 歯・歯周組織・口腔軟組織の形態と構造について説明できる。 言語機能、咀嚼機能について説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 顔面・頸部の疾患について。口腔軟組織の疾患について。 【授業形態】 講義 【到達目標】 言語障害と関係ある歯科疾患を説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 中間試験、解説 【授業形態】 筆記試験 【到達目標】 既習事項の定着度の確認。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 顎と顎関節疾患について。歯と歯周組織の疾患について。 【授業形態】 講義 【到達目標】 言語障害と関係ある歯科疾患を説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 言語障害を引き起こす病変について。 【授業形態】 講義 【到達目標】 言語障害を引き起こす病変(口腔疾患、悪性腫瘍切除後の後遺症、口腔疾患以外の原因など)を説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 口腔・顎・顔面の機能障害の治療について。 【授業形態】 講義 【到達目標】 言語、咀嚼、摂食障害に対しての歯科医学的治療法について説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験、解説 【授業形態】 筆記試験 【到達目標】 既習事項の定着度の確認。			【評価について】 小テストは授業開始時に前回授業の定着度確認として計5回行う。定期試験は筆記試験で行う。授業内容の定着度確認として実施し、中間試験40点、定期試験60点とする。試験規定に準ずる。			
【特記事項】 予習を行いましょう(授業単元内容について教科書を一読する)。							

科目名 (英)	臨床歯科医学・口腔外科学Ⅱ	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
	(Clinical dentistry・Oral surgeryⅡ)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 日曜日 1時限
学科・コース	言語聴覚士科2年制						
【授業の学習内容と心構え】 歯科医師として臨床歯科・口腔外科の臨床経験のある教員が、言語聴覚士に必要な臨床歯科医学、口腔外科学領域の知識を習得するための学習指導を行う。							
【到達目標】 言語聴覚士に必要な臨床歯科医学、歯科口腔外科領域の知識を整理する。							
【使用教科書・教材・参考書】 言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学－器質性構音障害－ 第2版 道 健一、他(編集) (医歯薬出版)				【授業外における学習】 言語聴覚士国家試験問題(過去問)の反復練習。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 言語障害と関係ある歯科疾患 【授業形態】 講義 【到達目標】 ①顎と顎関節疾患について学ぶ。 ②歯と歯周組織の疾患について学ぶ。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 言語障害と関係ある歯科疾患 【授業形態】 講義 【到達目標】 ①顎と顎関節疾患について学ぶ。 ②歯と歯周組織の疾患について学ぶ。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 言語障害を引き起こす病変 【授業形態】 講義 【到達目標】 ①口腔疾患によるものを学ぶ。 ②悪性腫瘍切除後の後遺症について学ぶ。 ③口腔疾患以外の原因によるものを学ぶ。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 既習事項の定着度の確認、中間試験、解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 中間試験、解説				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 言語障害を引き起こす病変 【授業形態】 講義 【到達目標】 ①口腔疾患によるものを学ぶ。 ②悪性腫瘍切除後の後遺症について学ぶ。 ③口腔疾患以外の原因によるものを学ぶ。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 口腔・顎・顔面の機能障害の治療 【授業形態】 講義 【到達目標】 言語、咀嚼、摂食障害に対するの歯科医学的治療法について学ぶ。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 口腔・顎・顔面の機能障害の治療 【授業形態】 講義 【到達目標】 言語、咀嚼、摂食障害に対するの歯科医学的治療法について学ぶ。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 既習事項の定着度の確認、定期試験、解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 既習事項の定着度の確認。			【評価について】 小テストは授業開始時に前回授業の定着度確認として計5回行う。定期試験は筆記試験で行う。授業内容の定着度確認として実施し、中間試験40点、定期試験60点とする。試験規定に準ずる。			
【特記事項】 臨床歯科・口腔外科Ⅰの復習を行うこと。							

科目名 (英)	呼吸発声発語系の構造・機能・病態Ⅱ (Structure function of respiratory utterance speech system Function pathologyⅡ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 日曜日 1時限
【授業の学習内容と心構え】 歯科医師として臨床歯科・口腔外科経験のある教員が、言語聴覚士に必要な臨床歯科医学、口腔外科学、摂食嚥下リハビリテーション領域の知識を獲得させ、臨床に向けた学習指導を行う。							
【到達目標】 言語聴覚士として必要な臨床歯科医学、口腔外科学、摂食嚥下リハビリテーション領域の知識を整理し、実践的な力を身につける。							
【使用教科書・教材・参考書】 言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学－器質性構音障害－ 第2版 道 健一、他(編集) (医歯薬出版)				【授業外における学習】 言語聴覚士国家試験問題(過去問)の反復練習。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 臨床歯科医学 【授業形態】 講義 【到達目標】 言語聴覚士に必要な臨床歯科医学の知識を説明できる。 歯の構造と機能				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 臨床歯科医学 【授業形態】 講義 【到達目標】 言語聴覚士に必要な臨床歯科医学の知識を説明できる。 歯科疾患				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 口腔外科学 【授業形態】 講義 【到達目標】 言語聴覚士に必要な口腔外科学の知識を説明できる。 口腔領域の構造と機能および唾液腺				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 中間試験、解説 【授業形態】 中間試験、講義 【到達目標】 既習事項の定着度の確認。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 口腔外科学 【授業形態】 講義 【到達目標】 言語聴覚士に必要な口腔外科学の知識を説明できる。 口腔疾患の治療 主に唇裂、口蓋裂の手術および補綴治療について				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 摂食嚥下リハビリテーション 【授業形態】 講義 【到達目標】 言語聴覚士に必要な摂食嚥下リハビリテーション領域の知識を説明できる。 嚥下に必要な筋肉および神経				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 摂食嚥下リハビリテーション 【授業形態】 講義 【到達目標】 言語聴覚士に必要な摂食嚥下リハビリテーション領域の知識を説明できる。 摂食嚥下の評価と訓練				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験、解説 【授業形態】 定期試験、講義 【到達目標】 既習事項の定着度の確認。			【評価について】 小テストは授業開始時に前回授業の定着度確認として計5回行う。定期試験は筆記試験で行う。授業内容の定着度確認として実施し、中間試験40点、定期試験60点とする。試験規定に準ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	聴覚系の構造・機能・病態Ⅰ	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
	(Physical and Functional Diseases of the Auditory SystemⅠ)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 月曜日 5時限
学科・コース	言語聴覚士科2年制						
【授業の学習内容と心構え】 言語聴覚士として耳鼻咽喉科で難聴者のリハビリテーションを行い、言語聴覚士養成に十数年携わった教員が、聴器の構造と機能および病態について講義を行う。ただ、名称などを覚えるのではなく構造的な仕組みおよび病態と関連付けることによって、理解し、説明できることを目指す。 受講に際しては、教科書の当該箇所を予習し講義に臨んでください。講義中はわからないことはそのままにせず、質問をしてください。また、講義後は講義ノートを良く復習し、知識を自分のものとして運用できるようにしましょう。							
【到達目標】 ①聴器の構造的配置を理解する。②聴器の機能について説明できる。③聴器の病態について説明できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 聴覚障害学 適宜資料配布				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】聴器の構造と機能 【授業形態】講義 【到達目標】 聴器の全景が描画出来る。 外耳・中耳・内耳・後迷路の区分が出来る。 外耳の構造と機能が説明できる。			9	【授業単元】聴器の病態 【授業形態】講義 【到達目標】 難聴の種類とオーディオグラムについて理解する。 伝音・感音・混合難聴 聴力型		
2	【授業単元】聴器の構造と機能 【授業形態】講義 【到達目標】 中耳の構造と機能が説明できる。 鼓膜 鼓室			10	【授業単元】聴器の病態 【授業形態】講義 【到達目標】 伝音機構の障害を説明できる。 外耳の疾患 中耳の疾患		
3	【授業単元】聴器の構造と機能 【授業形態】講義 【到達目標】 中耳の構造と機能が説明できる。 耳管 耳小骨 インピーダンス整合			11	【授業単元】聴器の病態 【授業形態】講義 【到達目標】 伝音機構の障害を説明できる。 中耳の疾患		
4	【授業単元】聴器の構造と機能 【授業形態】講義 【到達目標】 内耳の構造と機能が説明できる。 骨迷路と膜迷路 蝸牛			12	【授業単元】聴器の病態 【授業形態】講義 【到達目標】 感音機構の障害を説明できる。 内耳の疾患		
5	【授業単元】聴器の構造と機能 【授業形態】講義 【到達目標】 内耳の構造と機能が説明できる。 相殺効果 半規管 耳石器			13	【授業単元】聴器の病態 【授業形態】講義 【到達目標】 感音機構の障害を説明できる。 内耳の疾患		
6	【授業単元】聴器の構造と機能 【授業形態】講義 【到達目標】 聴覚伝導路の構造と機能について説明できる。 各神経核と機能 両耳聴効果			14	【授業単元】聴器の病態 【授業形態】講義 【到達目標】 感音機構の障害を説明できる。 後迷路の疾患		
7	【授業単元】聴器の構造と機能 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 ここまで知識を問題演習を通じて確認する。 国試過去問の活用			15	【授業単元】後半の振り返り 【授業形態】講義 【到達目標】 ここまで学んだ知識をアウトプットする。 定期試験 解答解説		
8	【授業単元】前半の振り返り 【授業形態】講義 【到達目標】 ここまで学んだ知識をアウトプットする。 中間試験 解答解説			【評価について】 評価は、筆記試験で行なう。授業内で確認した、専門的な知識・技術の理解、定着度を確認する。筆記試験は中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。評価は、学則規定に準ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	聴覚系の構造・機能・病態Ⅱ (Physical and Functional Diseases of the Auditory SystemⅡ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 土曜日 3時限
【授業の学習内容と心構え】 言語聴覚士として耳鼻咽喉科で臨床を行い、言語聴覚士養成に十数年携わった教員が、聴覚系の構造と機能について振り返りの講義を行い、応用力を養う。受講に際しては、一年次に学んだ内容を復習し講義に臨んでください。講義中はわからないことはそのままにせず、質問をしてください。また、講義後は講義ノートを良く復習し、知識を自分のものとして運用できるようにしましょう。							
【到達目標】 ①聴器の構造・機能・病態を説明できる。②様々な表現、出題に対しても対応できる応用力をつける。							
【使用教科書・教材・参考書】 一年次に使用したノートおよびプリント 適宜資料配布				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】聴器の構造 【授業形態】講義 【到達目標】 聴覚系の構造について説明できる。 外耳の構造 中耳の構造				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】聴器の構造 【授業形態】講義 【到達目標】 聴器の構造について説明できる。 内耳 後迷路				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】聴器の機能 【授業形態】講義 【到達目標】 聴器の機能について説明できる。 インピーダンス整合 内耳機能 両耳聴効果				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】前半の振り返り 【授業形態】講義 【到達目標】 中間試験 弱点ポイントの講義				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】聴器の機能 【授業形態】講義 【到達目標】 聴器の機能について説明できる。 平衡機能 聴覚フィルター				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】聴器の病態 【授業形態】講義 【到達目標】 聴器の病態について説明できる。 外耳障害 中耳障害				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】聴器の病態 【授業形態】講義 【到達目標】 聴器の病態について説明できる。 内耳障害 後迷路障害				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】後半の振り返り 【授業形態】講義 【到達目標】 定期試験 解答解説			【評価について】 評価は、筆記試験で行なう。授業内で確認した、専門的な知識・技術の理解、定着度を確認する。筆記試験は中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。評価は、学則規定に準ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	神経系の構造・機能・病態Ⅱ Physical and Functional Diseases of the Auditory SystemⅡ	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 日曜日 2時限
【授業の学習内容と心構え】 言語聴覚士として臨床経験のある教員が授業を担当する。言語聴覚士が臨床場面に際し、その業務を確実に実践していくために必ず理解しておかなければならないのが神経系に関する知識である。 言語障害、聴覚障害、嚥下など、どれを取ってみてもその理解には神経系の知識が不可欠になる。 ここでは、失語症と高次脳機能障害を中心に総復習を行う。							
【到達目標】 これまで学習した失語症と高次脳機能障害の内容と病巣を再確認し、振り返りの講義を行う。							
【使用教科書・教材・参考書】 病気がみえる7 脳・神経 失語症学 第3版 高次脳機能障害学 第3版 配布済みの資料				【授業外における学習】 講義後に必ず復習をおこなう。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 失語症の症状と病巣の対応を理解する 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 失語症の症状と病巣の対応を理解する。その1			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
2	【授業単元】 失語症の症状と病巣の対応を理解する 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 失語症の症状と病巣の対応を理解する。その2			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
3	【授業単元】 失語症の症状と病巣の対応を理解する 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 失語症の症状と病巣の対応を理解する。その3			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
4	【授業単元】 各種高次脳機能障害の症状と病巣の対応を理解する 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 各種高次脳機能障害の症状と病巣の対応を理解する。その1			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
5	【授業単元】 各種高次脳機能障害の症状と病巣の対応を理解する 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 各種高次脳機能障害の症状と病巣の対応を理解する。その2			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
6	【授業単元】 各種高次脳機能障害の症状と病巣の対応を理解する 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 各種高次脳機能障害の症状と病巣の対応を理解する。その3			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
7	【授業単元】 各種高次脳機能障害の症状と病巣の対応を理解する 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 各種高次脳機能障害の症状と病巣の対応を理解する。その4			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
8	【授業単元】 定期試験、解説 【授業形態】 【到達目標】			【評価について】 中間試験と定期試験合わせて;100点			
【特記事項】 国家試験を意識して知識の定着を確実にしよう。							

科目名 (英)	臨床心理学	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
	(Clinical Psychology)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 月曜日 3時限
学科・専攻	言語聴覚士科2年制						
【授業の学習内容と心構え】 臨床心理士・公認心理師として相談支援などに携わっている教員が、臨床心理学で検討されてきた様々な考えやその背景を踏まえつつ、「心理的援助」とは何かについて講義を進めていく。事例的内容も踏まえるが、対人支援は身近なところから臨床的な場面まで幅広いため、各場面でのイメージでの理解が求められる。受講者自身の体験とも照らし合わせ、想像力を働かせながら授業を受けることが望ましい。							
【到達目標】 言語聴覚士として必要な臨床心理学による知識を習得し、その内容について説明することができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 言語聴覚士のための心理学 山田弘幸著 医歯薬出版株式会社 リハビテーション心理学・臨床心理学 内山泰他編 医歯薬出版株式会社 授業中に適宜資料を追加していく。				【授業外における学習】 時間枠に対して内容量が多いため、予習復習を通じて、内容への習熟を深めることが必要になる。用語や背景などを説明できるようにまとめていくことが望ましい。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 臨床心理学とは 【授業形態】 講義 【到達目標】 臨床心理学の概要を説明できる パーソナリティの類型論と特性論を説明できる			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
2	【授業単元】 発達と心理臨床的課題 【授業形態】 講義 【到達目標】 発達障害や不登校といった発達過程で生じる課題について説明できる			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
3	【授業単元】 防衛機制と精神障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 防衛機制の概要を説明することができる 精神障害に該当する内容を説明できる			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
4	【授業単元】 中間試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 第1回～第3回の内容について試験を通じて振り返ることができる。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
5	【授業単元】 臨床心理学的アセスメント(1) 【授業形態】 講義 【到達目標】 発達検査と知能検査について説明することができる。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
6	【授業単元】 臨床心理学的アセスメント(2)＋心理療法(1) 【授業形態】 講義 【到達目標】 面接法について説明することができる。 クライアント中心療法と精神分析療法について説明することができる。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
7	【授業単元】 心理療法(2) 【授業形態】 講義 【到達目標】 遊戯療法や家族療法といった構造や対象が異なる療法の概要について説明することができる。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
8	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 【到達目標】 7回目までの内容の理解度を定期試験を通じて確認する			【評価について】 評価は筆記試験で行なう。授業内で確認した、専門的な知識・技術の理解、定着度を確認する。筆記試験は中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。評価は、学則規定に準ずる。			
【特記事項】 重要点を絞って展開するが、授業時間枠内で全て詳細に触れることは難しいため、それらの単元については自発的な学習が望ましい。							

科目名 (英)	生涯発達心理学Ⅱ (Life-long Developmental PsychologyⅡ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 土曜日 4時限
【授業の学習内容と心構え】 言語聴覚士の資格を有し、障害児療育および介護予防分野で心理学的な実践と研究を長年行ってきた言語聴覚士の資格を有する教員が授業を担当する。 本講義の内容は、新生児期から老年期までを対象とする言語聴覚療法の臨床現場で必ず必要な知識となる。授業に毎回出席し、必ず復習をして知識を確実に定着させること。							
【到達目標】 1年次に学んだ言語聴覚士として必要な生涯発達に関する知識を総復習する。							
【使用教科書・教材・参考書】 言語聴覚士のための心理学(医歯薬出版)、言語聴覚士テキスト第3版(医歯薬出版)				【授業外における学習】 毎回の講義後に家庭学習として必ず復習をし、内容の理解と知識の定着を図ること。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】発達の概念 【授業形態】講義 【到達目標】 様々な発達理論の特徴を概説できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】新生児期・乳児期 【授業形態】講義 【到達目標】 知覚・認知・運動の発達について説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】新生児期・乳児期 【授業形態】講義 【到達目標】 愛着と社会性の発達について説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】中間試験、解説 【授業形態】講義 【到達目標】 第1回～3回までの内容について確実に理解しておく。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】幼児期・児童期 【授業形態】講義 【到達目標】 遊びと認知機能の発達について説明できる。 自己および他者認知の発達と仲間作りについて説明できる。 教育と発達について説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】青年期 【授業形態】講義 【到達目標】 自己同一性の確立について説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】成人期・老年期 【授業形態】講義 【到達目標】 社会的な営みと加齢の影響、死への対応について説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】定期試験、解説 【授業形態】講義 【到達目標】 全7回の内容について確実に理解しておく。			【評価について】 中間試験（40点満点） 実施方法:筆記試験 定期試験（60点満点） 実施方法:筆記試験			
【特記事項】							

科目名 (英)	心理測定法Ⅱ	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
	(Psychometric Method Ⅱ)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分	後期 土曜日 5時限
学科・コース	言語聴覚士科2年制						
【授業の学習内容と心構え】 言語聴覚士の資格を有し、障害児療育および介護予防分野で心理学的な実践と研究を長年行ってきた教員が授業を担当する。 本講義の内容は、言語聴覚療法の臨床現場で用いられる検査法の基礎となる。心理学領域の中ではもっとも数学寄りの内容となるが、理解すれば面白くなる はずである。授業に毎回出席し、必ず復習をして知識を確実に定着させること。							
【到達目標】 1年次に学んだ言語聴覚士として必要な心理現象の測定方法に関する知識を総復習する。							
【使用教科書・教材・参考書】 言語聴覚士のための心理学(医歯薬出版)、言語聴覚士テキスト第3版(医歯薬出版)				【授業外における学習】 毎回の講義後に家庭学習として必ず復習をし、内容の理解と知識の定着を図ること。			
回	授 業 概 要	回	授 業 概 要				
1	【授業単元】 4つの尺度水準 【授業形態】 演習 【到達目標】 スティーブンスによる4つの尺度水準について各水準の特徴を説明できる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
2	【授業単元】 精神物理学的測定法(1)測定する感覚量 【授業形態】 演習 【到達目標】 精神物理学的測定法の概念と測定する代表的な感覚量について説明できる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
3	【授業単元】 精神物理学的測定法(2)測定方法 【授業形態】 演習 【到達目標】 感覚量を測定する代表的な方法について説明できる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
4	【授業単元】 中間試験、解説 【授業形態】 演習 【到達目標】 第1回～3回までの内容について確実に理解しておく。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
5	【授業単元】 測定の妥当性と信頼性 【授業形態】 演習 【到達目標】 測定の重要条件である妥当性、信頼性およびその関係について説明できる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
6	【授業単元】 評定法 【授業形態】 演習 【到達目標】 代表的な評定法について説明できる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
7	【授業単元】 信号検出理論 【授業形態】 演習 【到達目標】 知覚判断のモデル、信号検出理論について説明できる。		【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】				
8	【授業単元】 定期試験、解説 【授業形態】 演習 【到達目標】 全7回の内容について確実に理解しておく。	【評価について】 中間試験（40点満点） 実施方法:筆記試験 定期試験（60点満点） 実施方法:筆記試験					
【特記事項】							

科目名 (英)	言語学Ⅱ (LinguisticsⅡ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 土曜日 1時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 言語聴覚士の診療において、言語学的な分析能力は必要不可欠なものである。また、日本語の音声に対する知識や観察力、分析能力も必須である。本授業では、1年次に学習した言語学・音声学の知識をおさらいし、さらにその知識を活用して言語学的・音声学的な分析をするための訓練を身につけていく。言語学・音 声学の分析スキルを身につけた研究者であり、当該分野の専門知識を備えている講師が授業を担当する。							
【到達目標】 言語学・音声学の問題を解く力を身につける。問題を解くうえで、正しい選択肢に対して「なぜ正しいのか」、誤った選択肢に対して「なぜ間違いないのか」を自分のことばで他人に説明できるようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】 言語学Ⅰで使用した教科書に従う。竹内京子ほか『たのしい音声学』くろしお出版(※参考書:風間喜代三ほか編『言語学』第2刷(東京大学出版会))				【授業外における学習】 専門用語を覚えるだけでなく、具体例を自分なりに考えるなど、知識の応用ができるようになること。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 言語の基本的な性質/音韻論 【授業形態】 講義 【到達目標】 言語の基本的性質および音韻論について、用語の確認や試験問題への対策をする。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 文字論/形態論(1) 【授業形態】 講義 【到達目標】 文字論および形態論について、用語の確認や試験問題への対策をする。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 形態論(2) 【授業形態】 講義 【到達目標】 形態論について、用語の確認や試験問題への対策をする。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 中間試験 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 中間試験および解説				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 統語論(1) 【授業形態】 講義 【到達目標】 統語論について、用語の確認や試験問題への対策をする。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 統語論(2)/意味論 【授業形態】 講義 【到達目標】 統語論および意味論について、用語の確認や試験問題への対策をする。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 語用論/まとめ 【授業形態】 講義 【到達目標】 語用論について、用語の確認や試験問題への対策をする。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 定期試験および解説			【評価方法について】 評価は筆記試験で行う。試験の実施は第7回、あるいは第8回で行う(いずれの回で実施するかは初回の授業で指示する)。授業内で確認した、基礎知識・専門的知識の理解・定着度、およびその応用能力を確認する。基本問題(40点)と応用試験(60点)の合計100点満点で評価する。 評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】 なし							

科目名 (英)	音響学Ⅰ (Acoustics Ⅰ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 日曜日 2時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 担当教員の経歴:情報通信、電気音響、建築音響、聴覚心理の分野に関する研究・開発および大学での講義(聴覚心理学)を担当。 学習の内容:言語聴覚士の国家試験および言語聴覚士の業務を遂行するにあたり必要となる音響・音声学の知識を学ぶ。 学習の心構え:わからないことはそのままにせず、質問をすること。特に、高等学校などで三角関数、対数などの数学や力学、電気などの物理を履修していない場合は、遠慮なく質問して理解を深めてほしい。また、講義後は講義ノートを良く復習し、知識を自分のものとして運用できるようにする。							
【到達目標】 ①音の基本的な性質と測定量を説明できる。②デシベル表記の意味と演算方法を説明できる。③音の伝搬を説明できる。④音響素子を具体例を挙げて説明できる。⑤信号の性質を時間領域と周波数領域とから説明できる。⑥発話機構を音響学的側面から説明できる。⑦母音・子音の音響的特徴を説明できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 吉田友敬, "言語聴覚士の音響学入門 2訂版" 海文堂出版 配布プリント				【授業外における学習】 事前にテキストやプリントを読み、高等学校などで学んだ知識ではわかりにくいと感じる箇所を明確にして、授業に備えること。授業後の小テストを解答する前に復習を行い、疑問点を解消しておくこと(下記、特記事項参照)。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 音波の基本的な性質 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・音の性質とその表し方(音速、波長、周期)を説明できる ・音に関する測定量(音圧、強さ(インテンシティ)、音響パワー)を説明できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 デシベル表記と演算 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・音圧のデシベル表記を説明できる ・音の強さのデシベル表記を説明できる ・音響パワーのデシベル表記を説明できる デシベル表記での演算を説明できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 音の伝搬 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・音波の吸収を説明できる ・遮音、音波の反射を説明できる ・音の屈折を説明できる ・音の回折を説明できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 音響素子 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・音響質量、音響コンプライアンス、音響抵抗の性質と具体例を説明できる ・聴覚機構と発声・発話機構における音響素子の働きを説明できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 信号の時間領域表現と周波数領域表現 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・信号の時間領域表現と周波数領域表現を説明できる ・音の種類(純音と複合音、周期音と非周期音)を説明できる ・デジタル的取り扱い(標本化、量子化)を説明できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 発話機構の音響学的理解 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・音声の発話機構を説明できる ・発話機構の物理作用を説明できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 音声の音響的特徴 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・母音の時間波形の特徴と周波数成分の特徴を説明できる ・子音の時間波形の特徴と周波数成分の特徴を説明できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験／振り返り 【授業形態】 【到達目標】 ・学んだ知識を確認する			【評価方法について】 評価は、筆記試験で行なう。授業内で確認した、専門的な知識・技術の理解、定着度を確認する。試験は授業での小試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。評価は、学則規定に準ずる。			
【特記事項】 授業内容に応じて、デモンストレーション(音の聞き比べなど)や資料配布を行うことがある。中間試験を行わない代わりに、授業終了後、指定時間内にMicrosoft Formsを使った小テストを行い、定期試験の点数に加える。							

科目名 (英)	音響学Ⅱ (AcousticsⅡ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 日曜日 4・5時限
【授業の学習内容と心構え】 音響・音声情報処理の分野で、長年企業の研究開発部門で実務経験のある教員が、言語聴覚士に必要な音響学を徹底的にわかりやすく説明する。この授業では過去の出題をテーマごとに分類して解法を理解し、応用力を強化する。音響学は音声学、聴覚心理学、言語学、補聴器、聴覚検査などの基礎となる教科である。音響学を理解すれば波及効果も大きい。解ればどんどん質問ができるようになる。解らないことはその日のうちに質問して疑問を解消するようにしてほしい。							
【到達目標】 音響学の知識を整理し、国試問題の解法を習得する。							
【使用教科書・教材・参考書】 教科書：言語聴覚士の音響学入門 吉田友敬著(海文堂) 教材：演習問題集(プリントを配布)				【授業外における学習】 物理的、工学的専門用語が頻出するので、自分に合った学習方法を考案して実践すること。特に自習用のキーワード集などを自分に適したスタイルで作成すること。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 音の物理的な性質 【授業形態】 演習・解説・質疑 【到達目標】 (学習項目) 音とは何か、純音と複合音、音の速度、音の周波数・振幅・位相、周期音・非周期音・過度音、音圧レベルと音の強さのレベル(デシベル)、音の波形とスペクトルについて理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 声道・外耳道・音響管モデルの物理特性 【授業形態】 演習・解説・質疑 【到達目標】 (学習項目) 音響管内の音波の伝播・反射・共鳴・干渉、音響管の周波数特性、音響管の共鳴周波数の計算法について理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 線形システムと音声生成の音響理論Ⅰ 【授業形態】 演習・解説・質疑 【到達目標】 (学習項目) 線形システムの特徴、システムの伝達特性、音源フィルタ理論、音源特性、声道の周波数特性、放射特性について理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 音声生成の音響理論Ⅱ、言語音の音響的特徴Ⅰ 【授業形態】 演習・解説・質疑 【到達目標】 (学習項目) 実際の声道の特徴。母音の知覚とホルマント周波数、連続音声の中の母音のホルマント、子音の音響的特徴、子音ホルマント、破裂音におけるVOTとホルマントローカスについて理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 言語音の音響的特徴Ⅱ、言語音の超分節的特徴 【授業形態】 演習・解説・質疑 【到達目標】 (学習項目) 鼻音とアンチホルマント、接近音のホルマント遷移、言語音の波形、アクセント・イントネーションの音響的特徴、発話のリズム、発話速度、ポーズ、音声区間、無音区間について理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 音声の音響分析とサウンドスペクトログラムの特徴 【授業形態】 演習・解説・質疑 【到達目標】 (学習項目) アナログ信号のデジタル化(AD変換：サンプリングと量子化)、サウンドスペクトログラムの特徴(狭帯域分析と広帯域分析)について理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 言語音のサウンドスペクトログラム 【授業形態】 演習・解説・質疑 【到達目標】 (学習項目) 言語音のサウンドスペクトログラムの解釈ができるようになる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験と解説 【授業形態】 試験・試験後の解説・質疑 【到達目標】 (試験範囲) 中間試験と定期試験を同時に行う。試験範囲は第1回～第7回まで。五択問題、30～35問程度。全問正解を100点に換算する。			【評価について】 筆記試験によって評価する。中間試験と定期試験をまとめて実施し、100点満点で評価する。			
【特記事項】 授業中に疑問に思ったことは都度質問すること。							

科目名 (英)	聴覚心理学Ⅱ (Audio PsychologyⅡ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 日曜日 3時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 担当教員の経歴:情報通信、電気音響、建築音響、聴覚心理の分野に関する研究・開発および大学での講義(聴覚心理学)を担当。 学習の内容:言語聴覚士の業務を遂行するにあたり必要となる聴覚心理学の知識を学ぶ。 学習の心構え:わからないことはそのままにせず、質問をすること。特に、高等学校などで三角関数、対数などの数学や力学、電気などの物理を履修していない場合は、遠慮なく質問して理解を深めてほしい。また、講義後は講義ノートを良く復習し、知識を自分のものとして運用できるようにする。							
【到達目標】 ①音波の聴覚機構での情報処理を説明できる。②弁別閾値および音の高さを説明できる。③聴覚のマスキング現象および音の大きさ説明できる。④音声知覚を音声の物理特性と聴覚特性とから説明できる。⑤物理現象と聴覚生理機能とから両耳受聴を説明できる。⑥音色(音質)の知覚を事例を挙げて説明できる。⑦聴覚認知機能の特徴を事例を挙げて説明できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 吉田友敬, "言語聴覚士の音響学入門 2訂版" 海文堂出版 配布プリント				【授業外における学習】 事前にテキストやプリントを読み、高等学校などで学んだ知識ではわかりにくいと感じる箇所を明確にして、授業に備えること。授業後の小テストを解答する前に復習を行い、疑問点を解消しておくこと(下記、特記事項参照)。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 聴覚と音声に関する物理現象とその表記 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・デシベル表記を説明できる ・音の物理情報が知覚機構に入力されるまでの経路を説明できる ・聴力に関連する測定値を説明できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 聴覚の弁別閾値、音の知覚(音の高さ) 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・ウェーバーの法則、フェヒナーの法則、スティーブンスのべき法則の違いを説明できる ・音の強さの弁別、周波数の弁別、時間の弁別を説明できる ・音の高さを説明できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 聴覚でのマスキング現象、音の知覚(音の大きさ) 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・聴覚のマスキング現象を説明できる ・マスキングと音声知覚との関係を説明できる ・音の大きさを説明できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 音声の物理特性と音声の知覚 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・母音の特性・子音の特性を説明できる ・音声知覚に関連する聴覚特性を説明できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 両耳受聴 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・両耳での聞こえを物理現象と聴覚生理現象とから説明できる ・音像の知覚と音像制御を説明できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 音色と音質の知覚 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・音色に影響する物理量を説明できる ・音色に関する主観的要素を説明できる ・音色の表現語と物理特性を例を挙げて説明できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 聴覚認知 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・音声の知覚を説明できる ・音の認知・聴覚の情景分析を例を挙げて説明できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験／振り返り 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・学んだ知識を確認する			【評価方法について】 評価は、筆記試験で行なう。授業内で確認した、専門的な知識・技術の理解、定着度を確認する。試験は授業での小試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。評価は、学則規定に準ずる。			
【特記事項】 授業内容に応じて、デモンストレーション(音の聞き比べなど)や資料配布を行うことがある。中間試験を行わない代わりに、授業終了後、指定時間内にMicrosoft Formsを使った小テストを行い、定期試験の点数に加える。							

科目名 (英)	言語発達学Ⅱ (language developmentⅡ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 月曜日 4時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 言語聴覚士として28年小児領域で江戸川区を拠点に養成校でも後進育成および特別支援学校、特別支援学級、小児専門歯科での支援に取り組んでいる教員が、言語発達で理解しておくべき内容を講義する。							
【到達目標】 言語聴覚士として必要な言語発達の流れを、乳幼児期から児童期にわたって理解を深める。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】 必要に応じて指示します。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 言語発達を説明する理論 【授業形態】 講義 【到達目標】 生得説、学習説、認知説、社会・相互交渉説を理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 前言語期の発達 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・コミュニケーション行動の発達 ・発声行動・言語音知覚の発達 ・認知機能の発達 について理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 幼児期前期の言語発達 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・初語の出現・語彙の増加 ・言語発達を促す大人の関わり ・構文の発達 ・象徴機能の発達 について理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 中間試験・解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 第1回から第3回を試験範囲として実施。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 幼児期後期の言語発達 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・語彙・構文の発達 ・談話能力の発達 ・音韻意識の発達 について理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 学童期の言語発達 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・読み書き能力の発達 ・語彙・構文の発達 ・談話能力の発達 について理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 講義のまとめ 【授業形態】 講義 【到達目標】 今まで学んだ内容を振り返り、まとめる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験・解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 第1回から第7回を試験範囲として実施。			【評価方法について】 中間40点＋定期60点を筆記試験にて評価を行う。			
【特記事項】							

科目名 (英)	社会保障制度・関係法規Ⅱ (Social security system & The related regulations)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分	後期 土曜日 3時限
学科・専攻	言語聴覚士科2年制						
【授業の学習内容と心構え】 作業療法士の資格を有し、現場経験のある教員が授業を行う。基本的には、講義は初回を総論とし、それは以外に演習形式を主体とする。 関連法規はリハ医学とも密接にかかわるため、その周辺の知識も整備していきたい。6・7限の授業と一体として実施していく。							
【到達目標】 ST・関連職種に必要な知識を整備する。							
【使用教科書・教材・参考書】 テキストは準備します				【授業外における学習】 国家試験過去問題をデータで配布します。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 社会保障の概要 カテゴリーと範囲 医療法 【授業形態】 講義 【到達目標】 ①社会保障の4つの柱、キーワードを暗記する ②社会福祉の枠組みと出題範囲の理解ができる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 社会保険① 【授業形態】 演習・講義 【到達目標】 ①社会保険の5つの種類を暗記 ②公的「保険」制度とは何かを説明できる。 ③保険制度各論 「健康保険」「国民年金」国試				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 社会保険② 【授業形態】 演習・講義 【到達目標】 ①保険制度各論 「健康保険」「国民年金」の国試問題を解ける ②介護保険・雇用保険と労働災害保険 ③五つの保険の設計の違いと特徴				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 社会保障① 【授業形態】 演習・講義 【到達目標】 ①社会福祉六法の暗記と、周辺法律との違いの理解 ②福祉六法の概要、生活保護法 ③六法以外の社会保障関連法律				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 中間試験と振り返り 【授業形態】 【到達目標】 試験を実施し、振り返りをします。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 社会保障② 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ①手帳の種類、等級の理解、支援の枠組みの理解 ②障害者総合支援法の枠組みと、障害者手帳の理解				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 概論② ICF 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ICF・その他について理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 【到達目標】				【評価について】 学則の評価基準に準ずる		
【特記事項】							

科目名 (英)	リハビリテーション概論 (an outline of rehabilitation)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 土曜日 2時限
【授業の学習内容と心構え】 作業療法士として実務経験がある教員が、ICF・人口動態・福祉の概念について講義します。							
【到達目標】 リハビリテーション概論の内容を熟知し、関連領域も説明できる水準を目指します。 医療法や診療報酬から、自身の職種や病院・医療の施策との関連や理由をイメージできるように取り組みます。							
【使用教科書・教材・参考書】 テキストは準備します				【授業外における学習】 国家試験過去問題はデータで配布予定です。			
回	授 業 概 要			授 業 概 要			
1	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】	日本の福祉と社会保障の歴史と変遷 講義 ノーマライゼーション等基本用語の理解と記憶			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】	人口動態と静態・死因分析と 演習・講義 日本の死因や癌の死因上位を覚える			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】	標準予防策・リスク管理 演習・講義 手袋・感染経路・リキャップしないなどポイントを抑える			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】	ICF 演習・講義 ICFは勘違いしやすく問題に慣れておく。 多職種でも出題必須の項目なので、ほかの職種の過去問も出題			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】	中間試験と振り返り 入室してからテストを実施し、振り返りをします。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】	ST法と免許・虐待・成年後見人・介入法 講義・演習 ST法と免許は必ず正解できるように			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】	病院でのリハビリと診療報酬(国家試験外) 講義 医療機関での実務開始の際、どのような報酬体系で就労しているのかを理解しておく。			【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】	定期試験、解答解説 1～6回の内容について出題する。			【評価について】 中間試験40/100・定期試験60/100にて評価する。		
【特記事項】							

科目名 (英)	言語聴覚障害概論 II (Introduction to Speech and Hearing Disabilities II)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科 2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 月曜日 1・2時限
【授業の学習内容と心構え】 言語聴覚士として病院にて高次脳機能障害を呈した症例の評価、リハビリを実施してきた教員がその臨床経験を活かして講義と演習を展開する。臨床実習にむけて失語症、高次脳機能障害の症状・タイプ・検査・訓練について理解して欲しい							
【到達目標】 ①各々の症状を正しく理解する。 ②各々の病態に適した検査と訓練を理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 標準言語聴覚障害学 失語症学 第3版 標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学 第3版 病気がみえる 第2版				【授業外における学習】 国家試験の過去問題の解答解説作り			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】失語症の症状とタイプ 【授業形態】講義と問題演習 【到達目標】 ①様々な症状とタイプについて問題演習を通して理解する						
2	【授業単元】失語症の検査について 【授業形態】講義と問題演習 【到達目標】 ①様々な検査について問題演習を通して理解する						
3	【授業単元】失語症の訓練について 【授業形態】講義と問題演習 【到達目標】 ①様々な訓練方法について問題演習を通して理解する						
4	【授業単元】各種高次脳機能障害の症状について理解する 【授業形態】講義と問題演習 【到達目標】 ①各種高次脳機能障害について問題演習を通して理解する						
5	【授業単元】各種高次脳機能障害の症状について理解する 【授業形態】講義と問題演習 【到達目標】 ①各種高次脳機能障害について問題演習を通して理解する						
6	【授業単元】各種高次脳機能障害の検査について理解する 【授業形態】講義と問題演習 【到達目標】 ①各種高次脳機能障害の検査について問題演習を通して理解する						
7	【授業単元】各種高次脳機能障害の訓練について理解する 【授業形態】講義と問題演習 【到達目標】 ①各種高次脳機能障害の訓練について問題演習を通して理解する						
8	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 筆記試験(100点) 【到達目標】			【評価について】 筆記試験にて評価する定期試験100点。			
【特記事項】							

科目名 (英)	失語症Ⅲ (AphasiaⅢ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 日曜日 3時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 急性期や生活期での勤務を経て、現在は回復期病院で言語聴覚士として失語や高次脳機能障害、嚥下障害を呈した患者様のリハビリを担当している教員が授業を行います。本科目では言語聴覚士として失語について必要な知識、技術を習得してほしいです。							
【到達目標】 ①基礎知識や専門用語を理解し、活用できる。 ②各々の病態を正しく理解する。 ③各々の病態に適した検査と訓練を理解し、実施できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 ・標準言語聴覚障害学 失語症学 第3版 ・なるほど失語症の評価と治療 ・配布資料				【授業外における学習】 事前に授業範囲の教科書、配布資料に目を通し、予習していることが望ましいです。 小テストや配布資料を活用して、復習することが望ましいです。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 失語に関する基礎知識・専門用語の復習 【授業形態】 講義 【到達目標】 失語に関する基礎知識・専門用語について理解を深める				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 失語の古典分類による各タイプの特徴 【授業形態】 講義 【到達目標】 各失語症のタイプの特徴について理解を深める				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 失語の古典分類ではないタイプの特徴 【授業形態】 講義 【到達目標】 古典分類ではない失語のタイプの特徴について理解を深める				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 中間試験、解説 【授業形態】 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 失語の検査について 【授業形態】 講義 【到達目標】 失語に関する様々な検査について理解を深める				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 失語の訓練について 【授業形態】 講義 【到達目標】 失語に関する様々な訓練について理解を深める				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 小児失語について 【授業形態】 講義 【到達目標】 小児失語について理解を深める				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験、解説 【授業形態】 【到達目標】				【評価方法について】 評価は筆記試験で行います。授業で確認した専門的知識の理解・定着度を確認します。筆記試験は中間試験40点、定期試験60点の合計100点で評価します。評価は学則規定に準じます。		
【特記事項】							

科目名 (英)	言語発達障害学Ⅱ (Speech Development Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 月曜日 3時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 言語聴覚士として28年小児領域で江戸川区を拠点に養成校でも後進育成および特別支援学校、特別支援学級、小児専門歯科での支援に取り組んでいる教員が、言語発達で理解しておくべき内容を講義する。							
【到達目標】 言語聴覚士として必要な言語発達障害について、各障害の特徴やその評価、指導支援について理解を深める。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】 必要に応じて指示します。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 主要な障害の種類と疾患 【授業形態】 講義 【到達目標】 知的能力障害、自閉症スペクトラム障害、SLD、ADHDなどの知識を深める。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 評価の種類① 【授業形態】 講義 【到達目標】 発達検査、知能検査を中心としたさまざまな評価方法を知る。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 評価の種類② 【授業形態】 講義 【到達目標】 言語発達検査、学習認知検査を中心としたさまざまな評価方法を知る。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 中間試験・解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 第1回から第3回を試験範囲として実施。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 指導・支援① 【授業形態】 講義 【到達目標】 言語発達段階に即した指導・支援を理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 指導・支援② 【授業形態】 講義 【到達目標】 障害別指導・支援を理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 働きかけの諸技法 【授業形態】 講義 【到達目標】 S-S法やTEACCHプログラムなど、働きかけの諸技法について理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験・解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 第1回から第7回を試験範囲として実施。			【評価方法について】 中間40点＋定期60点を筆記試験にて評価を行う。			
【特記事項】							

科目名 (英)	言語発達障害学Ⅲ	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
	(Language Development DisordersⅢ)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 日曜日 3時限
学科・コース	言語聴覚士科2年制						
【授業の学習内容と心構え】 言語聴覚士の資格を有し、小児発達支援に携わる教員が授業を行う。こどもの全体発達について理解し、その上で言語発達・言語発達障害の要因、メカニズムを考えていく。							
【到達目標】 言語発達とその障害について理解を深め臨床の基盤を作る。							
【使用教科書・教材・参考書】 標準言語聴覚障害学 言語発達障害（医学書院）				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 こどもの全体発達 【授業形態】 講義 【到達目標】 発達、発達理論について理解できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 言語発達障害に関する基礎知識 【授業形態】 講義 【到達目標】 言語発達障害の定義 言語発達障害のアプローチ について理解できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 言語発達障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 知的発達障害について理解できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 中間試験、解説 【授業形態】 講義 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 言語発達障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 言語症・言語障害(SLI)について理解できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 言語発達障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 自閉症スペクトラム障害について理解できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 言語発達障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 学習障害について理解できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験、解説 【授業形態】 講義 【到達目標】			【評価について】 学則の評価基準に準ずる			
【特記事項】							

科目名 (英)	言語発達障害演習 (Practice of Language Development Disorders)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科2年制	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 月曜日 1時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 言語聴覚士として28年小児領域で江戸川区を拠点に養成校でも後進育成および特別支援学校、特別支援学級、小児専門歯科での支援に取り組んでいる教員が、知識及び技術として得ておくべき検査について行う。							
【到達目標】 言語聴覚士として必要な小児領域の検査について知識を得て、検査が一人でも実施できるようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】 必要に応じて指示します。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 オリエンテーション 【授業形態】 講義 【到達目標】 言語発達障害における検査にはどのような意味や意義があるかを理解する。 今回の授業の流れを理解して、問題なく授業に参加できる準備をする。			9	【授業単元】 LC-R① 【授業形態】 講義 【到達目標】 LC-Rの概要を知り、ひとりで実施及び結果を出すことが出来るようになる。		
2	【授業単元】 PVT-R① 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 PVT-R絵画語い発達検査の概要を知り、ひとりで実施及び結果を出すことが出来るようになる。			10	【授業単元】 LC-R② 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 マニュアルに沿って検査を実施。 グループで結果をまとめる。		
3	【授業単元】 PVT-R② 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ロールプレイで複数人実施。各結果を算出することが出来るようになる。			11	【授業単元】 LC-R③ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 マニュアルに沿って検査を実施。 グループで結果をまとめる。		
4	【授業単元】 S-S法言語発達遅滞検査① 【授業形態】 講義 【到達目標】 S-S法言語発達遅滞検査の概要を知り、実施できる準備をする。			12	【授業単元】 LC-R④ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 マニュアルに沿って検査を実施。 グループで結果をまとめる。		
5	【授業単元】 S-S法言語発達遅滞検査② 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 マニュアルに沿って検査を実施。 グループで結果をまとめる。			13	【授業単元】 LC-R⑤ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 マニュアルに沿って検査を実施。 グループで結果をまとめる。		
6	【授業単元】 S-S法言語発達遅滞検査③ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 マニュアルに沿って検査を実施。 グループで結果をまとめる。			14	【授業単元】 まとめ 【授業形態】 講義 【到達目標】 PVT-R、S-S法言語発達遅滞検査、LC-Rの振り返りを行う。		
7	【授業単元】 S-S法言語発達遅滞検査④ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 マニュアルに沿って検査を実施。 グループで結果をまとめる。			15	【授業単元】 定期試験、解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 1回から14回までを範囲とした筆記試験を行う。		
8	【授業単元】 中間試験、解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 第1回から第7回を試験範囲として筆記で実施。			【評価方法について】 中間40点＋定期60点を筆記試験にて評価を行う。			
【特記事項】							

科目名 (英)	音声障害Ⅱ	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
	(Voice DisordersⅡ)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 日曜日 3・4時限
学科・コース	言語聴覚士科2年制						
【授業の学習内容と心構え】 耳鼻咽喉科での臨床経験を有する言語聴覚士が講義を行う。この授業では重要事項の確認をしながら問題を解き、解説を行う。「音声障害Ⅰ」、「耳鼻咽喉科学」、「呼吸発声発語系の構造・機能・病態」の講義内容を復習してきてください。							
【到達目標】 ①音声障害の疾患について説明できる。 ②音声障害の疾患に適した検査法と訓練法を説明できる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 第2版				予め復習をして授業に臨んでください。学んだことがそのまま国家試験対策となります。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 発声と構音のための構造と機能 【授業形態】 講義と演習 【到達目標】 発声発語器官の構造について説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 発声と構音のための構造と機能 【授業形態】 講義と演習 【到達目標】 発声発語器官の構造とその役割について説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 検査・評価 【授業形態】 講義と演習 【到達目標】 音声障害の検査法について説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 検査・評価 【授業形態】 講義と演習 【到達目標】 音声障害の評価法について説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 疾患・治療・訓練 【授業形態】 講義と演習 【到達目標】 音声障害の疾患とその特徴について説明することができる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 疾患・治療・訓練 【授業形態】 講義と演習 【到達目標】 音声障害の各疾患について治療、訓練法を説明することができる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 総復習 【授業形態】 講義と演習 【到達目標】 音声障害についてその疾患の概要、評価法、訓練法を説明することができる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験・解説 【授業形態】 【到達目標】			【評価について】 ・定期試験(100点満点):筆記試験 ・評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】 発声発語器官の構造や機能の知識は成人領域、小児領域共に言語聴覚士の臨床に不可欠です。講義の前に復習をしっかりとってください。							

科目名 (英)	機能性器質性構音障害Ⅰ (Speech DisordersⅠ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科 2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 金曜日 1・2時限
【授業の学習内容と心構え】 長年、言語聴覚士として小児の臨床に携わってきた教員が、言語聴覚士のスペシャリストとして社会に送り出すために、構音障害に必要な知識と技術を習得する授業を行う。また、講義を通して、学習のモチベーションを維持できるように、具体的なST業務の魅力ややりがいについて伝えていきたい。その日授業を受けたら、復習をしっかりした上で、次週の授業に臨んで欲しい。							
【到達目標】 機能性・器質性構音障害の構音訓練法の習得							
【使用教科書・教材・参考書】 発声発語障害学第3版 医学書院 2021 構音障害の臨床 金原出版 2008				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 音の産生訓練法を学ぶ 【授業形態】 講義 【到達目標】 訓練の基本的原則を理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 音の産生訓練法を学ぶ(2) 【授業形態】 講義 【到達目標】 訓練の基本的原則を理解する(2)				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 音の産生訓練法を学ぶ(3) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 p、b、mの訓練方法の習得				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 音の産生訓練法を学ぶ(4) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 k、gの訓練方法の習得				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 音の産生訓練法を学ぶ(5) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 s、tの訓練方法の習得				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 音の産生訓練法を学ぶ(6) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 rの訓練方法の習得				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 音の産生訓練法を学ぶ(7) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 異常構音の訓練方法の習得				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】定期試験、解答解説 【授業形態】 【到達目標】 出来なかった問題を見直し、理解を確実にする。				【評価について】 定期試験(100点) 実施方法:筆記試験		
【特記事項】							

科目名 (英)	機能性器質性構音障害Ⅱ (Speech DisordersⅡ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 月曜日 1時限
【授業の学習内容と心構え】 長年、小児のリハビリに関わってきた言語聴覚士の資格を有する講師が授業を担当する。							
【到達目標】 正常構音の発達および機能性・器質性構音障害について理解する							
【使用教科書・教材・参考書】 標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 その他 資料・プリント配布				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 構音の発達・構音器官についての理解 【授業形態】 講義 【到達目標】 構音の発達・構音器官についての理解				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 構音の発達・構音器官についての理解 【授業形態】 講義 【到達目標】 機能性構音障害の定義 音声表記				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 機能性構音障害の検査 【授業形態】 講義 【到達目標】 構音検査				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 中間試験、解説 【授業形態】 講義 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 評価について 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 症例を通して				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 機能性構音障害の検査 【授業形態】 講義 【到達目標】 構音検査以外の検査				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 評価について 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 症例を通して				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験、解説 【授業形態】 講義 【到達目標】			【評価について】 学則の評価基準に準ずる			
【特記事項】							

科目名 (英)	機能性器質性構音障害Ⅲ (Speech Disorders Ⅲ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 月曜日 2時限
【授業の学習内容と心構え】 長年、小児のリハビリに関わってきた言語聴覚士の資格を有する講師が授業を担当する。							
【到達目標】 正常構音の発達および機能性・器質性構音障害について理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 標準言語聴覚障害学 発声発語障害 その他 資料・プリント配布				【授業外における学習】			
回 授 業 概 要				回 授 業 概 要			
【授業単元】 訓練法について学ぶ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 1 聴覚弁別訓練				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
【授業単元】 訓練法について学ぶ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 2 音の産生訓練				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
【授業単元】 器質性構音障害について概観する 【授業形態】 講義 【到達目標】 3 器質性構音障害について定義				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
【授業単元】 中間試験、解説 【授業形態】 【到達目標】 4				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
【授業単元】 器質性構音障害について概観する 【授業形態】 講義 【到達目標】 5 口唇・口蓋裂の臨床				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
【授業単元】 器質性構音障害について概観する 【授業形態】 講義 【到達目標】 6 口腔腫瘍に伴う舌切除・顎欠損について				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
【授業単元】 器質性構音障害について概観する 【授業形態】 講義 【到達目標】 7 形態異常・口腔習癖・咬合不全				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			
【授業単元】 定期試験、解説 【授業形態】 【到達目標】 8				【評価について】 学則の評価基準に準ずる			
【特記事項】							

科目名 (英)	運動障害性構音障害Ⅱ (DysarthriaⅡ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 月曜日 1・2時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 言語聴覚士として運動障害性構音障害の臨床経験を持つ教員が、評価・訓練を行うための理論と実技について講義を行う。また、言語聴覚士にとって必須な「運動障害性構音障害」の知識を解説していく。1年次に学んだ運動障害性構音障害の内容を振り、タイプ分類・検査・評価・訓練について内容を確認していく。今までの講義の見直しを行いつつ授業に臨んでほしい。							
【到達目標】 ①運動障害性構音障害の定義を理解し説明することが出来る ②運動障害性構音障害のタイプ分類を理解し説明することが出来る ③運動障害性構音障害の検査方法、訓練方法を理解しプログラムの立案まで実施することが出来る							
【使用教科書・教材・参考書】 ディサースリア臨床標準テキスト、発声発語障害学 第3版、病期がみえる vol.7脳・神経、配布資料				【授業外における学習】 予習・復習や国家試験過去問題の演習。 事前に該当する教科書を読んでおく。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 運動障害性構音障害の総論 【授業形態】 講義 【到達目標】 運動障害性構音障害の定義と言語障害の位置づけを理解し説明することが出来る				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 運動障害性構音障害のタイプごとの病態特徴 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 運動障害性構音障害のタイプ、発話特徴、メカニズムを理解し説明することが出来る				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 運動障害性構音障害のタイプごとの病態特徴 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 運動障害性構音障害のタイプ、発話特徴、メカニズムを理解し説明することが出来る				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 運動障害性構音障害のタイプごとの病態特徴 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 運動障害性構音障害のタイプ、発話特徴、メカニズムを理解し説明することが出来る				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 運動障害性構音障害の評価方法・検査方法について 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 運動障害性構音障害の評価方法について理解し説明することが出来る				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 運動障害性構音障害の訓練について 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 運動障害性構音障害の訓練方法について理解し説明することが出来る。また個別症状へのアプローチを考え、説明することが出来る。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 拡大・代替コミュニケーション(AAC)について 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 AACについて理解し説明することが出来る。また個別症状へのアプローチを考え、説明することが出来る。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験・解説 【授業形態】 【到達目標】 ここまで学んだ内容をアウトプットできる			【評価について】 授業で確認した専門的な知識の理解、定着度を確認する。試験は、定期試験(100点)の合計100点満点で評価する。評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	運動障害性構音障害Ⅲ (Dysarthria Ⅲ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 日曜日 1・2時限
【担当教員紹介と授業の学習内容と心構え】 言語聴覚士、公認心理師として生活期のクリニックで継続的に運動障害性構音障害の患者の評価訓練や生活支援を行ってきた教員が理論と実技について、現場の実情を交えつつ講義を行っていく。本授業では運動障害性構音障害の評価方法の確認と訓練法の理解、実践を行っていく。また、実際の症例情報を元に評価を行い、訓練プログラムをどの様に立てていくか演習を行っていく。							
【到達目標】 運動障害性構音障害の評価方法を選択し実際にできる 運動障害性構音障害の訓練法にどんなものがあるのか理解できる 運動障害性構音障害の訓練プログラムの立案ができる							
【使用教科書・教材・参考書】 ディサースリア 臨床標準テキスト(医歯薬出版) プリント配布				【授業外における学習】 過去の講義の資料を読み返して復習を行ってください			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】訓練法 総論 呼吸機能 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 運動障害性構音障害の訓練のエビデンスや予後について理解できる。呼吸機能の訓練法が理解できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】訓練法 呼吸・発声機能 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 運動障害性構音障害の呼吸機能、発声機能の訓練法が理解できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】訓練法 構音・鼻咽腔閉鎖機能・発話速度調整法 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 運動障害性構音障害の構音・鼻咽腔閉鎖機能・プロソディの訓練法が理解できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】AAC 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 AACの適応と種類を解説が出来る。実際の患者の情報を元にAACの選択の仕方が理解できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】中間試験・解説 【授業形態】 【到達目標】 誤った問題の正答とその理由を理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】症例検討① 生活期リハビリテーション症例とICF 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 生活期の症例をICFの観点から問題点や強みを分析して訓練プログラムを策定できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】症例検討② AAC 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 AACの導入が必要な難病症例について、必要な情報を収集出来て的確なAACを選択できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験・解説 【授業形態】 【到達目標】 誤った問題の正答とその理由を理解する				【評価について】 評価は5択形式で試験を行う。中間試験(40点)、定期試験(60点) の合計100点満点で評価する。評価は学則に準ずる。		
【特記事項】							

科目名 (英)	運動障害性構音障害演習 (Practice of Dysarthria)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科2年制	授業 形態	演習	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分	前期
						曜日・時間	土曜日 4・5時限
【授業の学習内容と心構え】 言語聴覚士として回復期の専門病院で運動障害性構音障害の患者の評価訓練を行ってきた教員が、理論と実技について講義を行う。また、言語聴覚士にとって必須な「運動障害性構音障害」の知識を解説していく。今までの講義の見返しを行いつつ授業に臨んでほしい。							
【到達目標】 ①運動障害性構音障害の知識を再確認する。 ②運動障害性構音障害の検査方法、訓練方法を理解しプログラムの立案まで行えるようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】 ディサースリア臨床標準テキスト、発声発語障害学 第2版、構音障害の臨床改訂第2版、配布資料				【授業外における学習】 予習・復習や国家試験過去問題の演習。 事前に該当するマニュアルを読んでおく。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 運動障害性構音障害とは 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 言語障害としての運動障害性構音障害の位置づけを理解できる。 口腔構音器官に係る筋肉について理解できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 運動障害性構音障害のタイプごとの病態特徴 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・弛緩性dysarthria ・痙性dysarthria ・失調性dysarthria ・運動低下性dysarthria ・運動過多性dysarthria ・UUMNdysarthria ・混合性dysarthria の病態が理解できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 運動障害性構音障害のタイプごとの病態特徴2 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・弛緩性dysarthria ・痙性dysarthria ・失調性dysarthria ・運動低下性dysarthria ・運動過多性dysarthria ・UUMNdysarthria ・混合性dysarthria の特徴が理解できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 中間試験・解説 【授業形態】 【到達目標】 ここまで学んだ知識をアウトプットできる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 運動障害性構音障害の評価方法の理解 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・AMSDの内容の復習 ・AMSDの実施				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 運動障害性構音障害の評価方法の理解2 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・AMSDの内容の復習 ・AMSDの実施				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 運動障害性構音障害の訓練・アプローチ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・訓練方法が理解できる ・代償的アプローチが理解できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験・解説 【授業形態】 【到達目標】 ここまで学んだ内容をアウトプットできる				【評価について】 評価は、筆記試験で行う。授業で確認した専門的な知識の理解、定着度を確認する。筆記試験は、中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。評価は学則規定に準ずる。		
【特記事項】							

科目名 (英)	嚥下障害Ⅱ (DysphagiaⅡ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 月曜日 4・5時限
【授業の学習内容と心構え】 言語聴覚士の資格を有し、臨床経験のある教員が授業を行う。摂食・嚥下障害について、学校や実習で学んできたことの再確認を行う。 基本的なメカニズムから検査方法まで、今まで学習してきた知識の確認を1つずつしていきます。							
【到達目標】 嚥下のメカニズムと嚥下障害について再学習を行い、知識の再確認を行う。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】摂食・嚥下障害の基礎概念を理解する 【授業形態】講義 【到達目標】 ・摂食・嚥下障害の基礎概念を理解する ・チームの構成、言語聴覚士法に基づいた介入の概念を理解する			9	【授業単元】間接訓練を理解する 【授業形態】講義 【到達目標】 ・間接訓練を理解する		
2	【授業単元】嚥下筋やメカニズムを理解する 【授業形態】講義 【到達目標】 ・摂食・嚥下の運動メカニズムと神経機構を、「咀嚼」「嚥下」「食道」の各領域で理解を深める。 ・嚥下関連機関筋の名称、神経支配を把握し理解する			10	【授業単元】間接・直接訓練を理解する 【授業形態】講義 【到達目標】 ・間接・直接訓練を理解する		
3	【授業単元】摂食・嚥下障害のモデルについて理解する 【授業形態】講義 【到達目標】 ・呼吸と嚥下の関連の理解 ・小児・乳児の摂食・嚥下機能の特徴を理解する			11	【授業単元】直接訓練を理解する 【授業形態】講義 【到達目標】 ・直接訓練を理解する		
4	【授業単元】摂食・嚥下の一連の運動を理解する 【授業形態】講義 【到達目標】 ・摂食・嚥下の一連の運動を理解する ・嚥下障害の病態を理解する			12	【授業単元】外科的手術を理解する 栄養ルートについて理解する 【授業形態】講義 【到達目標】 ・嚥下機能改善手術と誤嚥防止術を理解する ・経腸栄養と静脈栄養を理解する		
5	【授業単元】栄養関連を理解する 【授業形態】講義 【到達目標】 ・摂食・嚥下における呼吸の神経機構を把握し、理解する ・摂食・嚥下障害による代表的合併症として誤嚥性肺炎を理解する ・その他合併症として低栄養や脱水などの基礎知識を学ぶ			13	【授業単元】問題演習 【授業形態】演習/講義 【到達目標】 ・演習問題を通じて内容を把握する/解説を行える		
6	【授業単元】スクリーニングテスト、VE、VFを理解する 【授業形態】講義 【到達目標】 ・スクリーニング評価の種類を学ぶ ・VE検査を学・嚥下造影の概念・特徴・目的を理解する ・嚥下造影の手順、準備物を理解する ・嚥下造影の評価項目を理解する			14	【授業単元】問題演習 【授業形態】演習/講義 【到達目標】 ・演習問題を通じて内容を把握する/解説を行える		
7	【授業単元】摂食・嚥下における検査の流れを理解する 【授業形態】講義 【到達目標】 ・頸部聴診法を学ぶ ・1－6の講義を理解する			15	【授業単元】定期試験、解説 【授業形態】講義 【到達目標】		
8	【授業単元】中間試験、解説 【授業形態】講義 【到達目標】			【評価について】 中間試験(40点満点) 実施方法:筆記試験 定期試験(60点満点) 実施方法:筆記試験			
【特記事項】							

科目名 (英)	吃音 I (Stuttering I)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 月曜日 1・2限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 言語聴覚士として吃音臨床に携わり、吃音当事者でもある教員が、吃音の基礎的な内容を講義する。知識だけではなくその障害像の本質を理解し、言語聴覚士として具体的な支援・啓発に努める人材を育成する。							
【到達目標】 吃音障害の基本的知識と、吃音障害の問題点を理解できる。吃音の治療・支援方法の特徴を学び、臨床における基盤を身につける。							
【使用教科書・教材・参考書】 標準言語聴覚障害学「発声発語障害学」医学書院				【授業外における学習】 専門用語を説明できるように復習をしてください。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 吃音症/吃音障害 の障害像を把握する 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・具体例を通して、吃音症の言語面や心理面の問題、社会的制限がわかる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 吃音の定義がわかる 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・吃音の定義、分類を理解する ・他の流暢性の障害が理解できる ・吃音中核症状、2次的症状がわかる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 吃音の進展、メカニズム、各原因論がわかる 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・吃音の進展がわかる ・吃音の発生メカニズムと特徴が理解できる ・吃音の各原因論がわかる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 中間試験 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・中間試験、解説、質疑応答				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 吃音の評価・検査がわかる 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・吃音の評価・診断の特徴がわかる ・吃音症状の鑑別・評価ができる ・吃音検査法の内容がわかる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 吃音の評価演習① 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・吃音の発話記録を録る事ができる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 吃音の評価演習② 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・吃音の発話記録を録る事ができる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・定期試験、解説、質疑応答				【評価方法について】 評価は筆記試験で行う。授業内で確認した専門的な知識の理解と定着度を確認する。筆記試験は、中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点。		
【特記事項】							

科目名 (英)	吃音Ⅱ (Stuttering Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 月曜日 <

科目名 (英)	小児聴覚障害Ⅰ	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
	(Infantile Auditory RehabilitationⅠ)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 日曜日 4・5限
学科・コース	言語聴覚士科2年制						
【授業の学習内容と心構え】 大学病院耳鼻咽喉科に勤務する言語聴覚士が、小児聴覚障害臨床の基本的な知識を身につける講義を行う。 講義中はわからないことはそのままにせず、質問をしてください。また、講義後は資料を基に復習し、知識を自分のものとして運用できるようにしましょう。							
【到達目標】 小児聴覚障害について理解し、聴覚障害がもたらす発達上の諸問題に対処しうる知識を身につける。							
【使用教科書・教材・参考書】 ・標準言語聴覚障害学 聴覚障害学第3版(医学書院) ・配布資料				【授業外における学習】 授業の内容を適宜復習してください。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】小児聴覚障害とは 【授業形態】講義 【到達目標】 小児聴覚障害の基礎的な知識を理解する 発達と聴覚障害			9	【授業単元】聴覚障害児の言語・コミュニケーション評価 【授業形態】講義 【到達目標】 小児難聴の言語評価について理解する 小児難聴のコミュニケーション評価について理解する		
2	【授業単元】小児聴覚障害とは 【授業形態】講義 【到達目標】 小児聴覚障害の基礎的な知識を理解する 小児聴覚障害の原因			10	【授業単元】聴覚障害児の指導・訓練 【授業形態】講義 【到達目標】 訓練の基礎的な考え方について理解する		
3	【授業単元】聴覚障害と評価 【授業形態】講義 【到達目標】 新生児スクリーニングから療育までの流れについて理解する 新スクと精密検査 確定診断から療育まで			11	【授業単元】指導・支援と計画 【授業形態】講義 【到達目標】 各年齢での指導内容について理解する		
4	【授業単元】聴覚障害と評価 【授業形態】講義 【到達目標】 小児の聴覚発達とそれに合わせた聴覚検査について理解し、説明できる 聴覚発達リスト 乳幼児聴覚検査			12	【授業単元】指導・支援と計画 【授業形態】演習 【到達目標】 各年齢での指導内容について理解する		
5	【授業単元】小児の補聴機器 【授業形態】講義 【到達目標】 小児における補聴機器の特徴を理解する			13	【授業単元】指導・支援と計画 【授業形態】演習 【到達目標】 小児の訓練場面を観察し記録を取る RAWデータ 観察記録から訓練記録を作成する SOAP		
6	【授業単元】言語・コミュニケーションの検査と評価 【授業形態】講義 【到達目標】 人工内耳演習			14	【授業単元】指導・支援と計画 【授業形態】演習 【到達目標】 訓練記録から訓練計画を立案する		
7	【授業単元】言語・コミュニケーションの検査と評価 【授業形態】講義 【到達目標】 人工内耳演習			15	【授業単元】振り返り 【授業形態】講義 【到達目標】 定期試験 解答解説		
8	【授業単元】前半の振り返り 【授業形態】講義 【到達目標】 中間試験と解答解説			【評価について】 評価は、筆記試験で行う。 筆記試験は中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。 評価は、学則規定に準ずる。			
【特記事項】 人工内耳演習は外部メーカーが行うため、開講コマが前後することがある。							

科目名 (英)	小児聴覚障害Ⅱ (Infantile Auditory RehabilitationⅡ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 日曜日 4時限
【授業の学習内容と心構え】 大学病院耳鼻咽喉科に勤務する言語聴覚士が、小児聴覚障害臨床の知識を振り返る講義を行う。 受講に際しては、小児聴覚障害Ⅰの当該箇所を復習し講義に臨んでください。講義中はわからないことはそのままにせず、質問をしてください。 また、講義後は資料を基に復習し、知識を自分のものとして運用できるようにしましょう。							
【到達目標】 小児聴覚障害について理解し、聴覚障害がもたらす発達上の諸問題に対処しうる知識を身につける。							
【使用教科書・教材・参考書】 ・標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第3版(医学書院) ・配布資料				【授業外における学習】 講義後に復習をしましょう。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】小児聴覚障害の原因、聴覚発達 【授業形態】講義 【到達目標】 小児聴覚障害の原因を説明できる。 遺伝性・胎生期性・周産期性 新スクから生後一年までの聴覚発達を説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】出生から幼児期までの言語発達と訓練 【授業形態】講義 【到達目標】 聴覚障害児の出生から幼児期までの聴能、言語発達について説明 できる 聴覚障害児幼児期までの評価、訓練法について理解し、説明できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】幼児期までの言語発達と訓練 【授業形態】 【到達目標】 聴覚障害児を取り巻く環境や保護者への支援方法を理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】中間のまとめ 【授業形態】講義 【到達目標】 中間試験、解答解説				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】学齢期以降の言語発達と訓練 【授業形態】講義 【到達目標】 学齢期以降の聴覚障害児の発達と訓練について理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】学齢期以降の言語発達と訓練 【授業形態】講義 【到達目標】 構音の発達と訓練について理解できる 障害認識、セルフアドボカシーについて理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】聴覚障害児のコミュニケーション手段 【授業形態】講義 【到達目標】 聴覚障害児に必要なコミュニケーション手段、方法について理解する 視覚的手段:手話、指文字、キューサイン 聴覚的手段:補聴機器、補聴援助システム				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】定期試験 【授業形態】講義 【到達目標】 定期試験、解答解説			【評価について】 評価は、筆記試験で行なう。 筆記試験は中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。 評価は、学則規定に準ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	成人聴覚障害Ⅰ	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
	(Auditory RehabilitationⅠ)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 土曜 1・2時限
学科・コース	言語聴覚士科2年制						
【授業の学習内容と心構え】 大学病院の耳鼻咽喉科で言語聴覚士として聴覚障害児・者の臨床を行っている教員が、成人聴覚障害について基本的な知識を習得する講義を行う。受講に際しては、参考図書を読み、予習してから講義に臨んでください。また講義後は配布資料、講義ノートを復習し、知識を自分のものとして活用できるようにしましょう。							
【到達目標】 ①成人聴覚障害の種類、原因、特徴について理解する。②聴覚の評価法について理解する。③聴覚の補償手段について理解する。④聴覚障害成人のリハビリテーションとコミュニケーション支援の方法について理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 言語聴覚療法シリーズ5 改訂 聴覚障害Ⅰ 基礎編 建帛社、言語聴覚療法シリーズ6 改訂 聴覚障害Ⅱ 臨床編 建帛社、聴覚検査の実際 改訂4版 南山堂、標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第3版 医学書院				【授業外における学習】 聴覚障害に関連したテレビ番組や聴覚障害者が登場する映画、漫画等の作品を見て、聞こえないことの問題について考え、当事者を主体としたリハビリテーションの視点を持ちながら講義の予習、復習を行うことが望ましい。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 音と聴覚障害の基礎知識 【授業形態】 講義 【到達目標】 聴力を理解するための音の基礎知識について知る。耳の構造と機能を理解し、音の伝達経路を説明できる。			9	【授業単元】 リハビリテーション1 【授業形態】 講義 【到達目標】 リハビリ対象者の臨床像、診断からリハビリまでの流れを説明できる。小児から成人に至るまでの問題点、リハビリの方法について説明できる		
2	【授業単元】 聴力、難聴の種類と原因 【授業形態】 講義 【到達目標】 聴力レベルと聴力型の特徴を理解する。難聴の原因を知り、難聴の種類と特徴について説明できる。			10	【授業単元】 リハビリテーション2 【授業形態】 講義 【到達目標】 成人から高齢者までに生じる問題点を理解し、リハビリテーションの方法について説明できる。		
3	【授業単元】 聴覚検査 1 【授業形態】 講義 【到達目標】 標準純音聴力検査に使用する機器と使用方法、検査の実施方法を理解する。オーディオグラムの記載ができ、結果の解釈ができる。			11	【授業単元】 聴覚補償1（補聴器） 【授業形態】 講義 【到達目標】 補聴器の基本構造、機能、器種の特徴について理解する。補聴器の器種別特徴と機能について説明できる。中間レポート提出。		
4	【授業単元】 聴覚検査 2 【授業形態】 講義 【到達目標】 他覚的聴力検査、語音聴力検査に使用する機器と使用方法、検査の実施方法を理解する。身体障害の判定基準を知る。各検査の特徴が説明でき、結果の解釈ができる。			12	【授業単元】 聴覚補償2（補聴器） 【授業形態】 講義 【到達目標】 受診から補聴器購入までの流れと補聴器の音圧測定、調整、適合評価について理解する。利得、周波数特性、最大出力音圧などの用語および機能の特徴を説明できる。		
5	【授業単元】 成人聴覚障害者の聴取の実態 【授業形態】 講義 【到達目標】 難聴疑似体験を通して聴覚障害から生じる影響について考察する。成人聴覚障害者の聴取理解の困難さとその原因を知り、どのような場面で支援が必要なのか説明できる。			13	【授業単元】 聴覚補償3（人工内耳） 【授業形態】 講義 【到達目標】 人工内耳の基本構造、原理、特徴について理解する。人工内耳の効果と限界について説明できる。		
6	【授業単元】 成人聴覚障害者の諸問題 【授業形態】 講義 【到達目標】 成人聴覚障害者が抱える生活上の問題を知り、対応方法を説明できる。			14	【授業単元】 聴覚補償4（人工内耳） 【授業形態】 講義 【到達目標】 人工内耳の手術の方法、調整方法について理解する。手術の適応基準について理解し、基準の内容を説明できる。他の人工聴覚器の特徴と機能、適応基準について理解する。		
7	【授業単元】 コミュニケーション手段 【授業形態】 講義 【到達目標】 成人聴覚障害者のコミュニケーション手段（音声、読話、筆談、手話、指文字など）について特徴を理解する。コミュニケーション手段の活用方法について説明できる。			15	【授業単元】 定期試験、解説 【授業形態】 定期試験 【到達目標】 期末試験を実施。講義で学んだ成人聴覚障害の特徴、聴覚補償の方法、支援方法等の知識の理解度を評価し、試験後に解説して定着を図る。		
8	【授業単元】 視覚聴覚二重障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 視覚聴覚二重障害の医学的な基礎知識と特徴、コミュニケーション手段について理解し、支援の方法について説明できる。			【評価について】 評価はレポートおよび筆記試験で行い、専門的な基礎知識の定着度を確認する。試験は中間レポート(40点)、定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。評価は、学則規定に準ずる。			
【特記事項】 第5回講義中に疑似難聴体験を行うため、各自、スポンジ製耳栓を購入して持参すること。							

科目名 (英)	成人聴覚障害Ⅱ (Auditory RehabilitationⅡ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 日曜日 2時限
【授業の学習内容と心構え】 耳鼻咽喉科で聴覚障害児・者に携わった教員が、成人聴覚障害臨床に関する知識を振り返る講義を行う。 受講に際しては、成人聴覚障害Ⅰの当該箇所を復習し講義に臨んでください。講義中はわからないことはそのままにせず、質問をしてください。また、講義後は講義ノートを良く復習し、知識を自分のものとして運用できるようにしましょう。							
【到達目標】 ①成人聴覚障害の原因、症状、特徴について理解する。②聴覚・コミュニケーション・心理社会面の評価について理解する。③成人期の訓練・指導について理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 言語聴覚療法シリーズ6 改訂聴覚障害Ⅱ－臨床編 言語聴覚士のための聴覚障害学				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】成人聴覚障害の原因 【授業形態】講義 【到達目標】 成人聴覚障害の原因を説明できる。 老人性難聴 髄膜炎性内耳炎 その他難聴を引き起こす疾患				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】成人聴覚障害者の特徴 【授業形態】講義 【到達目標】 成人聴覚臨床の対象の特徴を説明できる。 ライフステージ上の問題を各ステージごとに説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】成人聴覚障害者の評価・訓練 【授業形態】講義 【到達目標】 中途失聴者の心理回復過程と適切な対応を説明できる。 オーディオグラムと聞こえの特徴について説明できる。 異聴分析とその解釈について説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】前半の振り返り 【授業形態】講義 【到達目標】 ここまで学んだ知識をアウトプットする。 中間試験 解答解説				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】成人聴覚障害者の評価・訓練 【授業形態】講義 【到達目標】 質問紙法による問題抽出について説明できる。 HDHS・聞こえの質問紙				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】成人聴覚障害者の評価・訓練 【授業形態】講義 【到達目標】 トップダウン処理とボトムアップ処理の違いを説明できる。 系列的な聴能訓練について説明できる。 読話訓練について説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】視覚聴覚二重障害 【授業形態】講義 【到達目標】 二重障害の特徴を説明できる。 タイプ分類とコミュニケーションモダリティ				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】後半の振り返り 【授業形態】講義 【到達目標】 ここまで学んだ知識をアウトプットする。 定期試験 解答解説			【評価について】 評価は、筆記試験で行なう。授業内で確認した、専門的な知識・技術の理解、定着度を確認する。筆記試験は中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。評価は、学則規定に準ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	聴力検査法Ⅰ (Hearing TestⅠ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科2年制	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 土曜日3・4時限
【授業の学習内容と心構え】 耳鼻咽喉科で各種聴覚検査を実施してきた教員が、聴力検査に関する基本的な知識および測定技術を身につける講義を行う。受講に際しては、教科書の当該箇所を予習し講義に臨んでください。講義中はわからないことはそのままにせず、質問をしてください。また、講義後は講義ノートを良く復習し、知識を自分のものとして運用できるようにしましょう。							
【到達目標】 各種聴力検査の目的、実施方法、結果の解釈について説明できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 聴覚検査の実際 適宜プリント配布				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】純音聴力検査 【授業形態】講義 【到達目標】 音の性質を理解する。 オーディオメーターの特性とオーディオグラム記載法を理解する。			9	【授業単元】前半の振り返り 【授業形態】講義 【到達目標】 中間試験 解答解説		
2	【授業単元】純音聴力検査 【授業形態】講義 【到達目標】 標準純音聴力検査の目的、方法が説明できる。 検査条件 閾値の測定法: 上昇法と下降法 受話器の装着方法			10	【授業単元】インピーダンスオーディオメトリー 【授業形態】講義 【到達目標】 音響性耳小骨筋反射検査を説明できる。 目的と方法と結果の解釈		
3	【授業単元】純音聴力検査 【授業形態】講義/演習 【到達目標】 マスキングについて説明できる。 簡易法とプラトール法 プラトール法を理解する。 プラトール法演習			11	【授業単元】インピーダンスオーディオメトリー/他覚的聴力検査 【授業形態】講義 【到達目標】 音響性耳小骨筋反射検査を説明できる。 顔面神経障害の障害部位と予後診断 聴性誘発反応について説明できる。 蝸電図、ABR、MLR、SVR		
4	【授業単元】純音聴力検査 【授業形態】講義 【到達目標】 自記オーディオメトリーについて説明できる。 目的と方法 内耳機能検査について説明できる。 SISI、ABLB、MCL/UCLtest			12	【授業単元】他覚的聴力検査 【授業形態】講義 【到達目標】 聴性誘発反応について説明できる。 ABRの検査条件、方法、結果の解釈 耳音響放射について説明できる。 EOAE、DPOAE、SOAE		
5	【授業単元】純音聴力検査 【授業形態】演習 【到達目標】 標準純音聴力検査が出来るようになる。			13	【授業単元】 【授業形態】演習 【到達目標】 各種検査を実施する。 プラトール法 語音聴力検査 内耳機能検査		
6	【授業単元】純音聴力検査 【授業形態】演習 【到達目標】 標準純音聴力検査が出来るようになる。			14	【授業単元】 【授業形態】演習 【到達目標】 各種検査を実施する。 プラトール法 語音聴力検査 内耳機能検査		
7	【授業単元】語音聴力検査 【授業形態】講義 【到達目標】 語音聴力検査について説明できる。 SRTとSDT スピーチオーディオグラム 語表			15	【授業単元】後半の振り返り 【授業形態】講義 【到達目標】 定期試験		
8	【授業単元】語音聴力検査/インピーダンスオーディオメトリー 【授業形態】講義 【到達目標】 語音聴力検査について説明できる。 SRTとSDTの検査方法 ティンパノメトリーについて説明できる。 目的と方法および結果の解釈			【評価について】 評価は、筆記試験で行なう。授業内で確認した、専門的な知識・技術の理解、定着度を確認する。筆記試験は中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。評価は、学則規定に準ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	聴力検査法Ⅰ (Hearing TestⅠ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科2年制	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 土曜日 4・5時限
【授業の学習内容と心構え】 耳鼻咽喉科で言語聴覚士として各種聴覚検査を実施してきた教員と心理学分野で研究および教育を行ってきた教員が、聴力検査法と心理学的観点から講義を行う。受講に際しては、教科書の当該箇所を予習し講義に臨んでください。講義中はわからないことはそのままにせず、質問をしてください。また、講義後は講義ノートを良く復習し、知識を自分のものとして運用できるようにしましょう。							
【到達目標】 各種聴力検査と心理測定の関連を理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 適宜使用を配布資料する。				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】測定の基礎知識 【授業形態】講義 【到達目標】 聴力検査に必要な知覚の特性について理解する。			9	【授業単元】聴力検査 【授業形態】演習 【到達目標】 弁別閾で学んだ知識をもとに聴覚閾値の測定を行う。		
2	【授業単元】測定の基礎知識 【授業形態】講義 【到達目標】 聴力検査に必要な知覚の特性について理解する。			10	【授業単元】聴力検査 【授業形態】演習 【到達目標】 弁別閾で学んだ知識をもとに聴覚閾値の測定を行う。		
3	【授業単元】感覚 【授業形態】講義 【到達目標】 感覚について理解する。 感覚の種類と感度			11	【授業単元】心理測定 【授業形態】講義 【到達目標】 精神物理学的測定手法を理解する。		
4	【授業単元】感覚 【授業形態】講義 【到達目標】 感覚について理解する。 物理量と感覚量			12	【授業単元】心理測定 【授業形態】講義 【到達目標】 尺度構成法について理解する。		
5	【授業単元】感覚 【授業形態】演習 【到達目標】 心理学実験 音の弁別閾の測定①			13	【授業単元】聴力検査 【授業形態】演習 【到達目標】 精神物理学的測定 閾値上検査①		
6	【授業単元】感覚 【授業形態】演習 【到達目標】 心理学実験 音の弁別閾の測定②			14	【授業単元】聴力検査 【授業形態】演習 【到達目標】 精神物理学的測定 閾値上検査②		
7	【授業単元】感覚 【授業形態】演習 【到達目標】 心理学実験 音の弁別閾の測定③			15	【授業単元】まとめ 【授業形態】演習 【到達目標】 レポート課題② 閾値検査と閾値上検査の測定手法の違いについて考察する。		
8	【授業単元】まとめ 【授業形態】演習 【到達目標】 レポート課題① 音の弁別実験について考察する。			【評価について】 評価は、2題のレポート課題で行なう。授業内で確認した、専門的な知識・技術の理解、定着度を確認する。レポートは各50点の100点満点で評価する。評価は、学則規定に準ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	聴力検査法Ⅱ (Hearing aid and Artificial inner earsⅡ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科2年制	授業 形態	演習	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分	後期 日曜日 5時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 大学病院耳鼻咽喉科に勤務する言語聴覚士が聴覚検査に関する知識の習得を目指す講義を実施する。 授業内容について、不明な点はそのままにせず、確実に理解するために積極的に質問してください。							
【到達目標】 ・各種聴覚検査について、検査内容・結果の解釈について説明出来る							
【使用教科書・教材・参考書】 聴覚検査の実際 改訂4版 適宜資料を配布する				【授業外における学習】 授業で配布した資料などを用いて内容を復習してください。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 聴覚検査の概要、標準純音聴力検査 【授業形態】 演習 【到達目標】 種々の聴覚検査の概要を理解する 標準純音聴力検査の内容を理解し、結果を説明することができる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 標準語音聴力検査・インピーダンスオージオメトリ・耳管機能検査 【授業形態】 演習 【到達目標】 標準語音聴力検査、ティンパノメトリ、耳小骨筋反射検査、耳管機能検査の内容を理解し、結果を説明することができる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 内耳機能検査・耳音響放射・平衡機能検査 【授業形態】 演習 【到達目標】 内耳機能検査・耳音響放射・平衡機能検査の内容を理解し、結果を説明することができる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 中間試験 【授業形態】 演習 【到達目標】 中間試験・解答解説				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 聴性誘発反応・機能性難聴・耳鳴検査 【授業形態】 演習 【到達目標】 聴性誘発反応の各種検査についての知識を理解し、結果の説明ができる 機能性難聴の検査上の所見を説明することができる 耳鳴検査の概要を理解し、説明することができる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 乳幼児聴力検査・選別聴力検査・身体障害者手帳 【授業形態】 演習 【到達目標】 乳幼児聴力検査について、検査の適応、結果の解釈が理解できる 選別聴力検査の概要を理解する 身体障害者手帳交付の適応条件について理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 まとめ 【授業形態】 演習 【到達目標】 全体的な内容のまとめ				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験 【授業形態】 演習 【到達目標】 定期試験・解答解説			【評価方法について】 評価は筆記試験にて実施する。 授業内で説明をした知識・技術の理解度を確認する目的とする。 試験は中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。 評価は学則規定に順ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	補聴器・人工内耳Ⅰ	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
	(Hearing Aid and Artificial Inner EarsⅠ)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 土曜日 3, 4時限
学科・コース	言語聴覚士科2年制						
【授業の学習内容と心構え】 耳鼻咽喉科で言語聴覚士として補聴器・人工内耳外来に携わった教員が、補聴器の適合に関する基本的な知識を身につける講義を行う。受講に際しては、教科書の当該箇所を予習し講義に臨んでください。講義中はわからないことはそのままにせず、質問をしてください。また、講義後は講義ノートを良く復習し、知識を自分のものとして運用できるようにしましょう。							
【到達目標】 ①補聴器の構造と機能について説明できる。②補聴器の特性の測定方法と調整を理解する。③補聴器のフィッティングの方法について理解する。④補聴器装用							
【使用教科書・教材・参考書】 補聴器のフィッティングと適用の考え方 言語聴覚士国家試験出題基準				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】補聴器の構造と機能1 【授業形態】講義 【到達目標】 補聴器の構造と機能について説明できる。 アナログ補聴器とデジタル補聴器 アナログ補聴器の主な調整器				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】補聴器の構造と機能2 【授業形態】講義 【到達目標】 補聴器の形態的特徴を説明できる。 ポケット型・耳掛け型・耳あな型補聴器など デジタル補聴器の機能を説明できる。 周波数の細分化・雑音抑制・ハウリング抑制など				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】補聴器の周波数特性の測定と調整 【授業形態】講義 【到達目標】 補聴器特性測定装置について説明できる。 無響箱・カブラ(2cm ³ カブラ・密閉型擬似耳)など 補聴器特性表について説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】前半の振り返り 【授業形態】講義 【到達目標】 ここまで学んだ知識をアウトプットする。 中間試験 解答解説				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】補聴器のフィッティング 【授業形態】講義 【到達目標】 補聴器のフィッティングについて説明できる。 補聴器装用時の検討 規定選択法と比較選択法 最大出力音圧の設定				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】補聴器適合検査 【授業形態】講義 【到達目標】 補聴器適合検査の指針2010を説明できる。 語音明瞭度曲線または語音明瞭度の測定 環境騒音の許容を指標とした評価など				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】装用指導 【授業形態】講義 【到達目標】 成人の装用指導について説明できる。 小児の装用指導について説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】後半の振り返り 【授業形態】講義 【到達目標】 ここまで学んだ知識をアウトプットする。 定期試験 解答解説			【評価について】 評価は、筆記試験で行なう。授業内で確認した、専門的な知識・技術の理解、定着度を確認する。筆記試験は中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。評価は、学則規定に準ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	補聴器・人工内耳Ⅱ (Hearing aid and Artificial inner earsⅡ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 日曜日 4時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 大学病院耳鼻咽喉科に勤務する言語聴覚士が、人工聴覚機器に関する知識の習得を目指す授業を実施する。 授業内容について、不明な点はそのままにせず、積極的に質問をして確実に理解してほしい。							
【到達目標】 ・人工内耳の構造と機能について説明できる。 ・人工聴覚機器について理解する事ができる。 ・小児／成人の術前から術後に至るまでの人工内耳(リ)ハビリテーションについて理解できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 適宜資料を配布する				【授業外における学習】 授業で配布した資料などを用いて内容を復習してください。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 人工内耳の概要 【授業形態】 講義 【到達目標】 人工内耳の機器の構成、仕組みを理解する 人工内耳の聴こえ、補聴器との違いを理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 人工内耳の適応基準、禁忌事項・行動制限 【授業形態】 講義 【到達目標】 人工内耳の適応基準を理解する 人工内耳のメリット・デメリットを理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 人工内耳の聴こえ、聴取成績、機器の進歩 【授業形態】 講義 【到達目標】 人工内耳の音声処理について理解する 機器の進歩や周辺機器の知識を得る				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 中間試験 【授業形態】 講義 【到達目標】 中間試験・解答解説				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 成人人工内耳リハビリテーションについて 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 成人人工内耳の術前・術後の流れを理解する ケーススタディ(症例検討)				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 小児人工内耳(リ)ハビリテーションについて 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 小児人工内耳の術前・術後の流れを理解する ケーススタディ(症例検討)				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 人工聴覚機器 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 実際の人工聴覚機器を供覧し、特徴や適応などを理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験 【授業形態】 講義 【到達目標】 定期試験・解答解説				【評価方法について】 評価は筆記試験にて実施する。 授業内で説明をした知識・技術の理解度を確認する目的とする。 試験は中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。 評価は学則規定に順ずる。		
【特記事項】							